

# 乳腺内分泌外科に通院・入院された患者さんへ 臨床検体及び診療情報使用に関するお知らせ

**研究課題： 高齢者 triple-negative 乳癌の病理学的特徴と予後の関係についての研究**

## 【研究の背景および目的】

一般的に triple-negative 乳癌は、ホルモン療法も抗 HER2 療法も効かない化学療法が必要な癌として知られています。しかしながら、高齢者への化学療法の適用は身体への負担が大きい懸念があるため、高齢者 triple-negative 乳癌をどのように治療するべきかはわかっていません。そこで、東邦大学医学部病理学講座では、高齢者 triple-negative 乳癌のうち、本当に化学療法が必要な癌はどのような癌であるのかを知ることを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、高齢者の triple-negative 乳癌に対しての治療を最適なものにするにつながります。

## 【研究対象および方法】

この研究は、香川大学医学部倫理委員会の承認を得て実施するものです。日本乳癌学会の高齢者乳癌についての班研究の一貫として行います。

2000 年～2013 年までに香川大学医学部附属病院において、乳癌の手術を受けた症例を対象とします（本施設からは高齢者約 10 例、非高齢者約 10 例の計約 20 症例、班研究全体としては約 160 症例を予定）。

病理検査後に残った試料を用いて種々のマーカー発現を免疫組織学的に調べ、診療録（カルテ）から抽出した手術成績とともに解析することにより、治療成績に影響を与える因子を調査します。

## 利用する検体・診療情報

検体：手術時に採取された検体

診療情報：年齢、性別、既往（基礎疾患、診断日）、治療開始日時、生存期間、家族歴、身長・体重等、腫瘍の臨床病理学的因子についての情報

## 外部との検体・診療情報の授受

本研究は、東邦大学医学部病理学講座、准教授、本間尚子との共同研究として実施します。検体と診療情報は、個人が特定できないように匿名化した状態で、香川大学から東邦大学に送ります。また、癌細胞の悪性度に関わるテロメアに関連する研究を香川大学で実施するため、郵送にて、共同研究機関の試料・情報が匿名化した状態で東邦大学を通じて香川大学に提供されます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[本学における研究責任者]

香川大学医学部病理病態・生体防御医学講座 腫瘍病理学 教授 松田陽子

[本学における研究分担者]

香川大学医学部附属病院乳腺内分泌外科学 准教授 紺谷桂一

[研究組織]

東邦大学医学部病理学講座 本間尚子

愛知県立がんセンター乳腺科部 澤木正孝

東京都健康長寿医療センター病理診断科 新井富生

横浜市立大学附属病院消化器・腫瘍外科 山田顕光

香川大学医学部腫瘍病理学 松田陽子

[研究代表者]

東邦大学医学部病理学講座 本間尚子

[共同研究機関（各施設の研究責任者）]

東邦大学医学部病理学講座 本間尚子

愛知県立がんセンター乳腺科部 澤木正孝

東京都健康長寿医療センター病理診断科 新井富生

横浜市立大学附属病院消化器・腫瘍外科 山田顕光

香川大学医学部腫瘍病理学 松田陽子

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部 病理病態・生体防御医学講座 腫瘍病理学

担当医師 松田陽子

電話 087-891-2109 FAX 087-891-2112